

修学旅行集 特

吉岐の島へ

行きますよ

今年度の修学旅行は玄界灘を越えての吉岐訪問となった。十一月二十七日の第一陣を皮切りに、二十九日第一陣、十二月三日第三陣と次々出発する予定。コース間交流を図り、楽しい思い出づくりの旅となつて欲しいもの。ここでは修学旅行特集として日程や吉岐の地理・歴史・名所などを紹介。

ウニ飯の昼食 焼酎の試飲も

吉岐に到着して間もなく「郷浦あまごころ本舗」で昼食タ

イム。ウニの炊き込みご飯をたっぷり頂こう。さらに左党に嬉しいのが「吉岐の蔵酒造」での焼酎の試飲。ここでは、地下130センチからくみ上げた水を使い、麦の風味を生かした酒造りを行う

旅のスケジュール

一日目
穴生学舎～黒崎IC～築地IC～博多港(10:00)～九州郵船フェリー～吉岐・郷ノ浦港～吉岐あまごころ本舗(昼食)12:40～13:40～岳の辻展望台～猿岩～黒崎砲台跡～吉岐の蔵酒造(試飲)～ホテルステラコート太安閣(17:00到着)

二日目
ホテル(8:30出発)～吉岐市立一支国博物館(8:50～10:10=学芸員による説明付き)～印通寺港(10:50)～フェリー～唐津東港～唐津アルピノ(昼食・海鮮玄海御前)～虹ノ松原～二丈浜玉西九州福岡都市高速～古賀SA(休憩)～黒崎C～穴生学舎(17:00到着)

吉岐へハイブ 地理・歴史など

吉岐島(いぎのしま)は南北17キロ、東西14キロの島。周辺には21の属島があるが、有人は4島だけ。まごめて吉岐諸島と呼ばれている。長崎県吉岐市の一島一市体制で島内に吉岐振興局が置かれている。また

全域が吉岐対馬国定公園に指定され大部分が玄武岩の溶岩台地で高低差が小さい。最高峰の「岳の辻」さえ標高212・8メートルで、8割は標高1000メートルを越えない。古代から朝鮮半島と九州を結ぶ海上交通の中継点。15世紀の朝鮮王朝の「海東諸国紀」にも島の名がある。また中国の史書「三国志」魏書の魏書東夷伝倭人条いわゆる魏志倭人伝には一支国と記されている。

ている。麦と米を2対1の割合で配合した吉岐焼酎は、麦の香りと米の甘みが特長だ。夜の宴

会では、ビール中瓶のほか酒・焼酎・ジューズ・ウーロン茶のいずれか一本が選べる。

吉岐の見どころ

岳の辻展望台 島内で一番高い山(標高212・8メートル)に設置された展望台。条件次第で対馬や呼子、松浦半島も望める。

猿

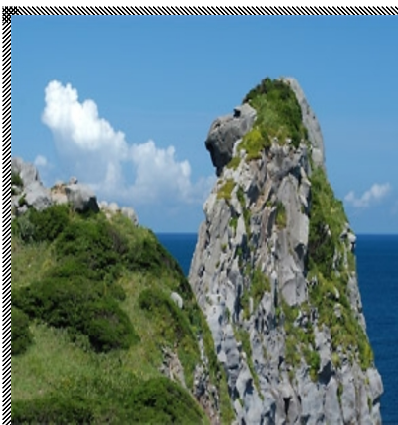
岩 黒崎半島の先端の高さ45メートルの海蝕玄武岩(写真左上)。そっぽを向いた猿にそっくりで自然の造形に驚かされる。

黒

崎砲台跡 猿岩から一分ほりて完成。弾丸の重さ1ト。最大射程距離は35キロで東洋一といわれたが、一発の実弾も発射することはなかった。

市

立一支国博物館 原の辻遺跡などの歴史遺産がとりわけ多いところから、珍しく離島への博物館建設となった。開館は2010年。復元された弥生時代の多重環濠集落「原の辻遺跡」を見渡す丘の上に建設された。



▲元寇の礎といわれているが日本の船のものとも

コース別出発日程

- 第一便・・11月27日(火)～28日(水)=実用書道・健康づくり サポーター・文化伝承・英会話・地域ふれあい・コーラス
- 第二便・・11月29日(木)～30日(金)=歴史に学ぶ・絵画入門・健康スポーツ・国際情報・生活情報
- 第三便・・12月3日(月)～4日(火)=心と身体の健康・健康管理・写真入門・アジアを学ぶ・暮らしと環境